

伊豆沼 内沼



①毎年7月下旬～8月中旬に開催される「はすまつり」。美しさもスケールも東洋一と言われているピンク色のハスの花が辺り一面に咲く中を、30分ほどかけて船頭さんの説明を聞きながら、ゆっくりと観賞することができる。(写真は2021年はすまつり) ②19枚の花弁が開くと大人の顔が隠れるほどの大きさになる。夜明けに咲き始め午後にはゆっくり萎むので、午前中が見ごろ。開花から2～3日で花が散り、実になる。③沼には水生植物が繁茂し、冬も凍ることがないため、ガンやカモ、ハクチョウなど渡り鳥の貴重な越冬場所となっている。1982(昭和60)年に国際的に重要な湿地を保全する「ラムサール条約」に登録された。早朝、鳥たちが一斉に飛び立つ風景は圧巻。④7月の大雨により伊豆沼・内沼の水位が大幅に上昇し、ハスの花が水没。今年のはすまつり(迫会場)は残念ながら中止となった。



案内人

伊豆沼・内沼はすまつり
船頭
高山 勝之 さん



毎年会いたくなる 人のつながりも魅力のはすまつり

登米市と栗原市にまたがる伊豆沼・内沼。面積は491畝。これは、なんと東京ドーム約100個分の広さです。豊かな自然が残され、秋から冬にかけては渡り鳥の越冬地としても知られています。

沼は周囲の田んぼの水源として利用されるとともに、荒川の遊水地として洪水調整の役割も果たしており、地域の人々の生活と密接に関わりながら保全されてきました。

ハスの開花時期には、「はすまつり」が開催されます。小型遊覧船に乗って、湖面いっぱい咲き誇るハスの花を間近に見ることが出来ます。毎年大勢の観光客に足を運んでいただき、船頭やスタッフ一同、皆さんとの出会いを楽しみにしながら活動しています。

長沼



①湖畔に広がる公園内には、多目的広場やキャンプ場、レストハウスや物産館も併設。晴れた日には栗駒山が青空にくっきりと浮かぶ絶好のフオトスポットに。園内施設では「おかえりモネ展」を開催中の他、ホームページで「ダンスで繋ごう！なないろのキズナ」を配信中。②長沼ポート場は、常設で2千メートルコースを8レーン備えた国内有数の施設で、国際大会規格の公認A級コースに指定されている。写真は7月に開催された全日本中学選手権競漕大会の様子。③連続テレビ小説「おかえりモネ」で森林組合事務所として使用された長沼ポート場クラブハウス。④源頼朝が尾州(愛知県)津島神社の分霊をまつたと伝えられる、隠れたパワースポット「津島本宮社」。鳥居をくぐり、振り返るとそこには…。⑤東北各地の名物グルメと日本酒を味わいながら走る「東北風土マラソン」。今年は新型コロナの影響などによりオンラインで開催された。(写真は2019年開催時)

解放感たっぷりのロケーションで 心と体をリフレッシュ

周囲約27キロ、面積630ヘクタール、県内最大を誇る長沼は、国際大会の開催が可能な全国有数の漕艇場としても有名です。

湖畔には、丘の上に立つ高さ21メートルのオランダ風車がシンボルとなり、長大なローラー滑り台、アスレチック、キャンプ場を有する長沼フットピア公園。開放的なレイクビューを楽しむため多くの人が訪れます。広大な敷地では、花火やフリーマーケットなどのイベントもめじろ押し。中でも、県内唯一のフルマラソン大会「東北風土マラソン」は、自然あふれる風景を眺めながら走るコースがランナーに人気。

また、風車の南側、鎮守の森には源頼朝が勧請したとされる「津島本宮社」があり、知る人ぞ知る秘めたるパワースポットとなっています。



長沼フットピア公園ホームページ